

園芸あきた担い手育成運動を展開 —販売実績に応じた担い手への助成事業—

- ①秋田県本部は平成18年に営農支援部担い手推進課を専任部署として設置。7名が専任職員となっている。中心は集落営農組織への事業支援とそれを推進するJAの出向く体制づくり支援。「担い手対応支援システム」の導入などを働きかけてきた。
- ②具体的な支援策の柱のひとつが米依存脱却をはかる「園芸あきた担い手育成運動」である。新規作物導入について、販売実績をもとに助成するという新たな取り組み。そのほか青果物用ダンボールなどの生産者名印刷済み納入など低コスト・省力化の支援、情報提供のためのFAX導入、機械化プランナーの育成などを行っている。
- ③JA秋田おばこでは、米単作地帯からの転換をめざして野菜に重点品目を設定して栽培を推進。県本部の担い手支援策も活用し集落営農への営農、経営指導を図っている。

コメ依存から脱却をめざして 枝豆にチャレンジ

秋田空港から車で10分ほどの大仙市協和中淀川の中村集落に昨年8月、農事組合法人「なかむら」が



安田甚一氏

発足した。

集落にはもともとライスセンター利用組合があったが稼働するのは秋のみ。集落の力を結集して施設の有効利用ができないかと考えていた。そんなとき「これからは集落でまとまって組織をつくらなければだめだ、と県やJAから話があって、よし、やろうと。高齢者も多くなったが、なんとか農業を続けるためにと結束しました」と代表理事の安田甚一さん。

集落内の農家18戸のうち12戸が参加、農地の約7割を集約した。

集落営農の組織化に踏み切った理由には「コメだ

けでは百姓はとても立っていられない」という気持ちがあった。

そこで19年産の作付け計画では、最初は助成金も多い大豆の作付けを考えたのだが、みんなで話し合ってみると自分たちの農機具や乾燥調製施設ではカバーしきれず、他の組織などに一部を委託しなければならないことが分かってきた。

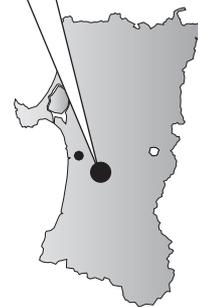
「これでは赤字になってしまうなと思って、JAに相談すると、契約栽培の枝豆をやってみないか、と持ちかけられた。どれも米以外、まるっきりやることがない(笑)のに、じゃあ、やってみるかとなった。作付けから栽培、収穫まで毎日のようにJAに電話して相談して乗り切りました」という。

相談に乗ったのはJA秋田おばこ協和営農センターの武藤秋雄センター長と橋本琢史さんたちだ。

JAは約10年前の合併以来、米単作地帯からの脱却をめざして、アスパラガス、トマト、ホウレンソウ、枝豆など重点品目として栽培を推進してきた。

「枝豆とスイートコーンは関東地方の特定の市場

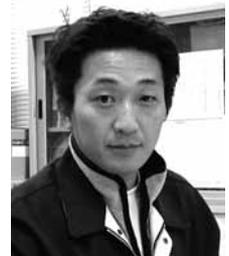
農事組合法人「なかむら」



秋田県



武藤秋雄氏



橋本琢史氏

との契約栽培もあって単価の保証もされる。収穫の一部は単価保証というメリットも生かせるから、と勧めました」と橋本さんは話す。

J A秋田おばこでは本店に集落営農育成や法人化推進のための専任者が3名いるが、支店管内での担い手支援には、今のところ営農センターの職員がきめ細かく対応することになっている。安田さんたちへの支援は橋本さんの役目で、枝豆のほかにもスイートコーンと、育苗後のハウスを利用したホウレンソウ栽培も持ちかけた。

その結果、19年産では水稲21ha、枝豆4.2ha、スイートコーン0.9haを作付け、ホウレンソウはハウス5棟で栽培している。取材に訪れた11月中旬、「これも初めて栽培したホレンソウがまもなく出荷できそうだった。ホレンソウは「まあ年2回、出荷できればいい」と安田さんは言うが、J Aの武藤さんと橋本さんは「いや、来年からは年4回、やりましょうよ」とすかさず働きかける。

同法人は安田さんのほかもう1人が常時オペレータとしているが、枝豆の収穫、選別時期には組合員の家族が作業に出た。時給500円という取りきめで作業してもらったが、最終的に精算が終わってみるとプラスアルファの額に。

「法人はもうからなくてもいい、集落に雇用機会が生まれればいいという私たちの考えですが、それが実現した。来年もやるぞ、と意気込んでます。農業する意識がガラッと変わったな」と安田さんは話した。

J Aの協和支店では支店内に誕生した9つの法人を支援するため行政と連携して法人連絡協議会を今年設置。米卸など実需者との意見会や先進事例の視察、税務相談などを行っていくことにしている。

複合経営の実現めざす 先駆的な園芸支援策



農事組合法人「なかむら」のようにコメ依存から脱却し園芸作物の導入など複合化をめざす担い手を後押ししているのが、全農秋田県本部の独自の担い手支援策の柱である「園芸あきた担い手育成運動」である。

秋田県本部では

18年度まで「園芸あきた産地確立運動」を展開してきた。これは園芸作物の作付け面積を増加させた生産者に対して、県本部がその増加分への助成を行うというものだった。

この取り組みを担い手支援策の検討のなかで新たに見直したものだ。

同事業の柱は4つ。そのうちの2つが①集落営農組織園芸作物新規導入事業と②大規模園芸農家育成対策事業だ。

このふたつの事業の大きな特徴は、作付け面積ではなく販売実績に応じて一定額の助成を行うという点だ。



斉藤恭史氏

県本部担い手推進課と連携して同事業の検討を進めてきた斉藤恭史・園芸課課長補佐は「販売金額に応じて助成することですから、J A、県本部、さらには市場関係者など販売に関わるものすべてが一致協力して販売実績を上げなけ



J A秋田おばこ協和支店



新規取り組み作物のホウレンソウ

れば、生産者への助成、手取りアップにつながりません。医療でいえばチーム医療のイメージです」と話す。

対象は集落営農組織であれば園芸作物で年間1000万円以上を目標とする組織、大規模個別経営であれば同500万円以上となっているが、品目は特定しない。導入初年度の今年は「各J Aが力を入れている野菜を中心に普及してきた」という。

前述のようにJA秋田おばこでは、枝豆、スイートコーン、ホウレンソウなどを重点品目しているが、安田さんたちの取り組みも対象になる。

一方、4つの柱の残り2つは③菌床しいたけ周年安定生産対策事業、④花き重点品目産地拡大対策事業であり、これらは品目特定した支援策である。

菌床しいたけ生産は盛んで販売量は伸びているが秋冬がメインとなっている。市場からは春夏栽培へのニーズも高いことから、今回は春夏栽培への増床と新規導入を対象に助成し安定して菌床しいたけを出荷する産地づくりをめざす。

また、花きでは菊類とトルコギキョウを重点品目とし、これも増床だけではなく新規導入生産者も対象にして助成措置を行う。

集落営農組織を対象にした園芸新規作物導入事業は、従来までの「作付けに対する助成」から「販売実績に対する助成」へと発想を大きく転換するものだ。JAグループの努力も求められるが、「売れる農産物づくり」という担い手への実質的な経済支援と複合経営の定着をめざすという点でJAグループ経済事業ならではのチャレンジといえるだろう。

これまでに①と②の販売見込額は1億6000万円。集落営農では27経営体、大規模経営では16経営体となっている。また、4つの柱で構成するこの新規の園芸支援事業全体での販売見込額は3億円となっている。

■ 県本部の担い手支援体制



JAグループ秋田の担い手育成・支援策では、集落営農の組織化を重点にその役割を中央会が担うこととし18年2月に担い手対策室を設置、全農県本部からも職員8名を出向させ県下JAと連携してまずは集落営農の組織化を急いだ。



煙山昭宏氏

県全体で3年後に500組織立ち上げを目標としたが、取り組み初年度の18年度に目標を上回る548の集落営農が組織化（法人含む）されるという実績を上げた。

一方、立ち上がった集落営農組織への事業支援を担うためJA全農秋田県本部では18年8月に「営農支援部担い手推進課」を専任部

署として設置、JAの「出向く体制」づくりの支援とJAと一体となった担い手対応の推進をめざし、煙山昭宏課長をはじめ合計6名の職員が専任者として配置されている。

JAの「出向く体制」づくりの第一歩となるのが、JAが担い手を登録する「担い手対応支援システム」の導入だ。そのため、担い手推進課の発足後は、課内に専任者を1名を置くサポート体制をとり、全JAでの支援システム導入と担い手登録促進を支援した。

各JAでリストアップされた担い手の支援システムへの登録は19年3月末では1831件にとどまっていたが、JA担当者へ繰り返し登録作業の重要性を働きかけ19年度に入り作業はスピードアップ、9月末では8165件に達した。目標の5500件をクリアし約150%の達成率となった。

登録の内訳は集落営農485件、法人130件、認定農業者7525件、そして部会組織など25件となっている。認定農業者には、県独自基準での登録も含まれており、国の品目横断的経営安定対策への加入申請者数5781件を約1700件上回っている。

■ 県本部独自の担い手支援対策

担い手推進課では、支援システムへの登録促進をJAに働きかけつつ、一方で具体的な担い手支援策を提示するため各部門との検討に取り組んだ。

担い手実施対策
実施期間
平成19年度～21年度(3年分)

1 農業生産法人への出資支援対策(5ヶ年 平成19年度～23年度)
2 グリーンレポート担い手対策
3 アビネス/アグリインフォ担い手対策
4 アラジン肥料の10トン満車直行による取引条件と価格対策(単年度更新)
5 農薬の大型規格品目の設定と価格対策(単年度更新)
6 土壌診断サービス事業
7 農機リース導入支援対策(単年度更新)
8 担い手施設園芸農家に対する営農用燃料対策(単年度更新)
9 集落営農組織パソコン機器導入経費助成対策
10 園芸あきた担い手育成運動
11 青果物用ダンボール大口利用担い手対策(単年度更新)
12 米麦容器大口利用担い手対策(単年度更新)
13 集落営農組織対策助成(肥料・農薬)
14 Fネット(ファクシミリ)営農情報通信



JA全農あきた
秋田県秋田市八橋南二丁目10番16号

園芸畜産部 園芸課 TEL.018-864-2491 FAX.018-864-2516
 営農支援部 担い手推進課 TEL.018-864-2461 FAX.018-864-2463

《JA・全農》
担い手を支援します!!

◆**低コスト・省力化を支援!!**

- アラジン肥料(10トン満車)を直送価格で提供!!
- 割安な農業大型規格品目の拡充!!
- ダンボール・米麦用紙袋大口注文には希望で生産者氏名・コード等を印刷し納入!!

工場

まわす、得だごと!!

- 低コスト農業機械の導入促進!!
- 農機のリース導入や集落営農組織の肥料・農薬の大口取引に助成!!

◆**情報提供や経営分析で農業経営を支援!!**

- FAXで毎週1回営農情報を提供!!
- 全農営農情報誌を毎月1回無料送付!!

そろそろインターネット
監かねはならぬな...

- インターネット情報システムで最新の情報等を提供!!
- 農機の適正導入を進めるため、機械化プランナーを育成!!

そのひとつが「園芸あきた担い手育成運動」だがそのほかの県本部独自の支援策について紹介しよう。

「低コスト・省力化の支援」で注目されるのが、青果物用ダンボール・米麦用紙袋の大口注文への生産者氏名・コードなどの印刷納入だ。集落営農の組織化が進めば組織代表者名などによる一元的な出荷・販売が求められることから、ダンボールでは1000箱以上、米麦用袋では5000袋以上の納入には代表者名やコードなどをあらかじめ印刷したものを購入できることにした。記入の手間が省け記述ミスなども防げることから生産者には好評で、ダンボールで136経営体、29万ケース、米麦用紙袋では31経営体、22万枚の出荷実績を上げている(10月末)。とくに米麦用紙袋の印刷納入は「出荷作業が楽になる」と好評で目標を2.5倍も上回る実績となっている。

また、生産資材部門では全国共通の低コスト農機リース導入事業に加えて、集落営農組織に対して県本部で独自で肥料・農薬の大口取引助成も実施することにした。この助成策への登録申請は535経営体となっている。

情報提供で 集落営農の農業経営を支援

集落営農組織に対しては農業経営に役立つ情報提

供でも支援策を講じている。

そのひとつが組織の代表者や事務所へのFAXの無償貸与だ。また、無償貸与を受けた組織やすでにFAXのある登録された集落営農組織に対しては、毎週月曜日に野菜部門、水稻部門に分けた営農情報、市場情報などを流している。さらに病害虫の注意報、警報など適切な防除を進めるための不定期の情報も提供している。

経営支援の具体策には、「機械化プランナー」の育成がある。

これは集落営農組織が今後の規模拡大、複合経営化など経営状況に応じた適正な農機具装備などを自分たちで判断できる人材を育成することが目的。コンバインからトラクター、さらには乾燥調製施設まで経営に必要な農機、施設をバランスよくトータルで組み合わせを考えるプランナー育成をめざし、今年度は3か所で研修会の開催を予定している。

担い手の前に 全農が姿を見せ声を聞け

このような生産資材部門から新規の園芸支援策までの具体的な担い手支援策が決定したのが今年8月。そして、園芸あきた担い手育成運動のパンフレット1万枚などJA、生産者への支援内容説明資料も作成し、煙山課長以下、担い手推進課の職員はJAとともに集落営農組織などへの同行訪問に力を入れ、事業内容を説明、JAと一体となった担い手に出向く体制に動き始めている。

県本部担い手推進課では、当面、園芸導入支援策事業を推進しているJAを中心に、集落営農組織への同行訪問を重ねていくことを重視している。

農事組合法人「なかむら」にもJA秋田おばこの協和営農センターの職員とともに出向き、新規の園芸作物導入の支援策を説明した。

「現場では、『全農!よく来たな』とか、「こんなこともやっているのか」と言われる。担い手の声では、販売力強化など収益につながる事業への期待が予想以上に多い。しっかり説明して理解してもらおうと同時に、担い手の声を聞きニーズを掘り起こして担い手支援策の充実につなげていくことも大事だと考えています」と煙山課長は話す。548の集落営農組織には今後すべてJAと同行訪問し、定期的な訪問にも取り組んでいく考えだ。